

特集 今年30回目の海の日！

30回目の「海の日」を迎えて

我が国は、国土面積の約12倍の海域を有する世界有数の海洋国家であり、海から食料の恵みを得て、人や物を行き来させ、海の恩恵を受けてきた。また、海を利用して海運業や造船業等の産業を興し、発展してきた我が国は現在、貿易の99.5%※¹、国内の貨物輸送約40%※²が海上輸送によって担われている。さらに、海運業、造船業等の国内産業は優秀な海事人材によって支えられている。「海の日」が国民の祝日として制定されてから30回目という節目を迎えた今年は、東京における「海の日記念行事2025」のほか、全国各地で様々な行事が開催された。

※1 トン数ベース

※2 トンキロベース

1) 「海の日」とは？

1995年、海の恩恵に感謝し、海洋国である日本の繁栄を願う「海の日」が国民の祝日として制定された（翌1996年施行）。これは、1876年（明治9年）に明治天皇が東北地方を巡幸された帰途、燈台巡視船汽船「明治丸」で青森から函館経由で7月20日に無事横浜港にご帰着された日を祝う「海の記念日」に由来している。

「海の日」をきっかけに、我が国が海から受けている恩恵や我が国の海洋との関わりについて、国民に改めて考えていただける機会となるよう、全国各地で官民が一体となって、船や海に関する様々な体験行事の実施に努めている。



▲現在の明治丸（国指定重要文化財）
（出典）東京海洋大学明治丸ミュージアム

[illegible]

2)「海の日記念行事2025」

「海の日」行事は、「海と日本プロジェクト」の一環として、2015年に、全国に「海の日」の意義を伝えようと総合海洋政策本部、国土交通省、日本財団による官民が協働した形で安倍総理（当時）出席の下、総合開会式を開催して以来、これまで実施してきた。

30回目の海の日を迎えた今年は、「海の日」の制定趣旨を踏まえ、国民の間に広く海洋についての理解と関心を深めることを目的として、7月21日（月・祝）（海の日）、東京都江東区の東京国際クルーズターミナルにおいて三者共催で「海の日記念行事2025」を開催した。

当日は、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席の下、開会式及び第18回海洋立国推進功労者表彰式（後述）を開催した。開会式では、秋篠宮皇嗣殿下よりお言葉を賜るとともに、石破内閣総理大臣からビデオメッセージが寄せられた。また、主催者挨拶や協賛団体からの発表、日本海洋少年団連盟による手旗信号の披露も行われた。これに先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、ターミナル内の海事関係団体の展示ブースを視察し、日本海洋少年団連盟の団員と懇談された。



◀日本海洋少年団の小中学生と懇談される秋篠宮皇嗣同妃両殿下

同行事には約8000人の来場客が訪れ、商船三井の自動車運搬船「CELESTE ACE」及び独立行政法人海技教育機構（JMETS）の練習船「大成丸」の体験乗船会、ステージイベントやターミナル内ブースにおける船や海に関する様々な展示ブースや体験イベント等を体験した。ステージイベントとしては、海上保安庁音楽隊、海上自衛隊東京音楽隊のコンサートに加え、日本船主協会による「市岡元氣先生のサイエンスライブ」及び日本財団によるトークイベント「物語で海を継ぐ～直木賞作家・伊与原新さんと考える“海の未来”」が開催された。

特集 今年は30回目の海の日！

3)「海の日記念行事2025」会場内の様子



▲石破内閣総理大臣ビデオメッセージ

石破内閣総理大臣は、近年、日本国民が海に親しむ機会が減っていることから、国民に海水浴、釣り等のマリンレジャー、臨海学校・船旅等を、安全を第一にして楽しんでいただくよう呼びかけた。また、海の重要性を今後の世代に引き継いでいくことの大切さを述べた。



▲中野大臣の開会式挨拶

中野国土交通大臣は、我が国の海運業・造船業等の海事産業に、金融や法律等が有機的に結びついた、世界でも有数の「海事クラスター」が国民生活や社会経済活動に欠かせないものになっており、海洋国家日本を後世につないでいくためにも、官民の協力が必要であると述べた。

また、中野大臣は関係機関による展示ブースにおいて、操船やエンジンの分解を体験するとともに、自動車運搬船に乗船し船内を視察した。



▲海上保安庁音楽隊によるコンサート



▲日本船主協会の「サイエンスライブ」

会場となった東京国際クルーズターミナルには、多くの方々が親子連れで足を運び、体験乗船会、展示ブースやステージでの催しなどを通じて、海や船に親しんでいた。

4)「海の日」 広報と C to Seaプロジェクト

国土交通省では、30回目の「海の日」を記念して、海の青色を基調とし、大海原をコンテナ船が進む様子をイラストにしたポスターを制作した。「海の日記念行事2025」の来場者を対象にしたアンケートでは、本ポスターをきっかけに同行事を知ったとの回答を多数いただいた。



▲海の日記念行事2025ポスター



▲東京の主要駅構内へのポスター掲示



▲「海の日特設サイト」による広報



▲CtoSeaプロジェクトブース

国土交通省では、海や船がさらに「楽しく身近な存在になるような世の中を目指し、「C to Seaプロジェクト」を推進している。「海の日記念行事2025」においても、同プロジェクトの取組を知ってもらうため、展示ブースを出展した。

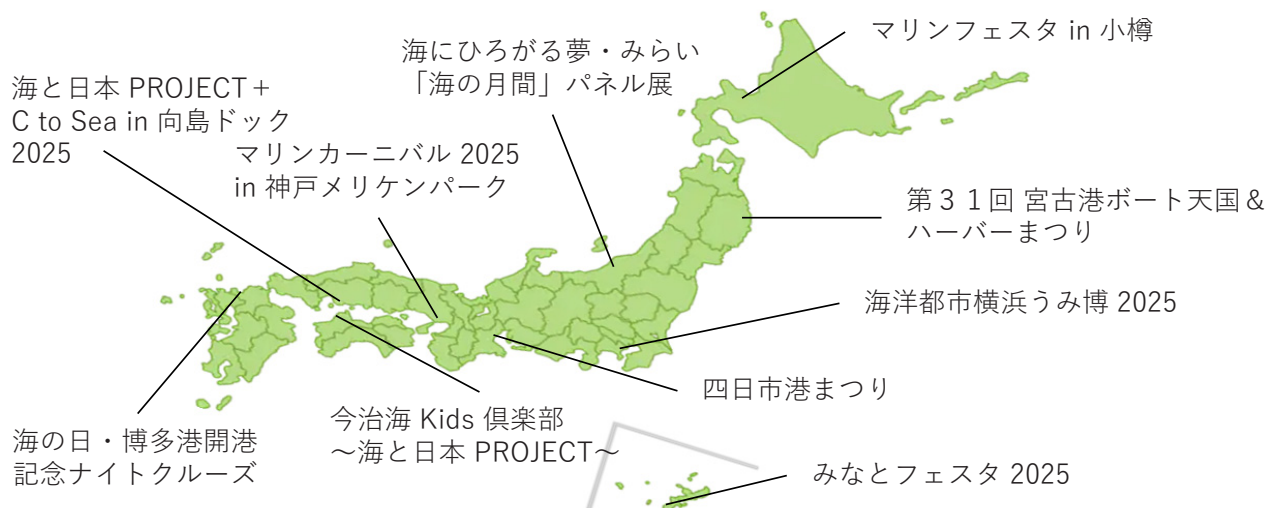
このほか、「C to Seaプロジェクト」が運営するXやInstagramといったSNSにおいても、「海の日」の意義や行事を周知するための投稿を積極的に行った。

特集 今年は30回目の海の日！

5) 全国の「海の月間」・「海の日」関連行事

2003年に「海の日」が7月第3月曜日になり3連休となったことを契機として、「海の日」本来の意義が失われることなく、より有効に活用されるよう環境づくりを進めていくこととし、広く国民の皆様には「海」に対する理解と認識を高めていただくため、国民の祝日「海の日」を含む、7月1日から31日までの1ヶ月間を「海の月間」として設けられている。期間中は、全国各地で海や船に親しむための様々な行事が実施されている。東京以外では、以下の代表的な地域で海や船に親しみ、海や船への理解を深めていただくための体験乗船会、施設見学等の「海の日」関連行事が開催された。

今年は、「海の日特設サイト」から、国民が近くの「海の日」関連行事を検索することができるようにした。



6) 海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣表彰）

科学技術、水産、海事、自然環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰し、その功績をたたえ広く紹介することにより、国民の海洋に関する理解・関心を醸成する契機とするため、2008年より国土交通省をはじめとする5省庁が共同で、内閣総理大臣表彰として「海洋立国推進功労者表彰」を実施している。

2025年の第18回表彰[※]では、「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野及び「海洋に関する顕著な功績」分野において5名1団体が受賞した。

※表彰式は、「海の日記念行事2025」と同じく、東京国際クルーズターミナルで実施。

第18回海洋立国推進功労者表彰受賞者

●「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

○小平 秀一

(国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事)

【大規模海底下探査手法の確立による海溝型地震メカニズムの実態解明に貢献】

○須賀 利雄

(東北大学大学院理学研究科 教授/
東北大学・海洋研究開発機構 変動海洋エコシステム研究所長)

【地球規模の海洋観測網構築による海洋における気候変動研究の推進に貢献】

○多田 邦尚

(香川大学名誉教授/香川大学瀬戸内圏研究センター 客員教授)

【沿岸海域の環境研究と環境保全、および沿岸海洋学の普及啓発に貢献】

○一般財団法人 日本船舶技術研究協会

【海事クラスタープラットフォームによる国際基準・規格の開発・強化】

●「海洋に関する顕著な功績」分野

○安田 一郎

(東京大学大気海洋研究所 名誉教授/国立研究開発法人海洋研究開発機構 特任上席研究員)

【海洋乱流鉛直混合と海洋・生態系変動の実態解明に貢献】

○辻本 勝

(国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 研究監)

【実海域実船性能評価の「ものさし」の開発による海運からのGHG排出削減に貢献】



▲受賞者記念撮影風景